

「海外ルーツの市民とともにある日本社会」シンポジウム JICA中部の振り返り（総括）

1. 参加者の反応やアンケート結果等から、海外ルーツの市民が私たちと同じ人権を持つことの重要性の理解、日本社会の課題の把握、そして共生社会実現に向けて私たちができるアクションを考えるという、**本シンポジウムの目的は十分達せられた。**
2. その大きな要因として、NGOと企画から運営まで協働し、**双方が持つ強みを発揮**できたことが大きいと考える。この協働が円滑に行われたベースとして「**協働のハンドブック** (2012年12月1日)」が**共有**されていた事があげられる。更に協働を通じその**内容が今日でも重要**であることを再認識した。
3. NGOとの**協働を通じて、これまで知らなかった方々と繋がり、多様な意見に触れる**ことができた。これらは今後JICAが多文化共生事業を進めていく中で大変有益な知見。
4. 特に国内での外国人材支援、共生にかかるJICAの知見は限定的で地域との連携が不可欠。今回の経験を踏まえ、来年度に向けて**NGOとJICA夫々の強み、相乗効果を発揮できる協働事業を検討**したい。